



千葉県御宿町立御宿小学校5・6年生の皆さんから戴いた寄せ書き

## 目次

中央研究所 新・旧所長のご挨拶 ..... 2	海生研調査研究レビューの開催 ..... 9
海生研ニュース100号発刊に際して ..... 3	座談会「漁業と原子力の共生を考える」の出版について ..... 10
海生研ニュース200号への発進に向けて ..... 3	「スペイン・メキシコ友好歴史探訪ハイキング」へのお誘い ..... 10
MERIマークの誕生秘話 ..... 5	実証試験場を公開します ..... 10
トピックス	人事異動 ..... 11
環境教育の実践 ..... 7	研究成果発表 ..... 11
御宿町「田んぼの自然観察」に参加, 青少年のための 科学の祭典, 荒浜小学校5年生の総合学習, 実証試 験場見学, 刈羽村ふるさとまつりに協力	行事抄録 ..... 12
NHK「クローズアップ現代」で海生研の研究を紹介 ..... 9	表紙写真について ..... 12
	海生研へのご寄付のお願い ..... 12

# 中央研究所 新・旧所長のご挨拶



## 新任のご挨拶

所長 木下 秀明

このたび10月1日付けで清野通康前所長の後任として、中央研究所長を拝命いたしました。原油価格の急騰や地球温暖化問題など、エネルギーの確保と環境問題はますます重要となってきています。一方、公益法人制度改革も目前に迫り、海生研をとりまく環境が大きく変わろうとしています。このような変革の時期にあたり、まことに微力ではありますが、新たな任務に邁進する所存です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

海生研では、発電所の取放水影響を科学的に解明することを中心課題としていますが、近年では、日本全国の藻場分布調査や微量物質が海産生物に及ぼす影響解明など、沿岸海域を取り巻く広範なテーマについて調査研究を推進しています。

海生研ニュース97号でもお知らせしましたように、

海生研の取り組むべき課題として「エネルギー生産と海域環境との調和」、「安心かつ安定的な食料生産への貢献」、「関連機関および社会との連携強化」の3本の柱を策定しました。地球温暖化問題や生物多様性の保全など、難しい問題が山積していますが、社会のニーズを的確に把握し、漁業と発電所の調和をめざし、豊かな沿岸海域を保全・再生するために、これまで蓄積してきた技術や知見を活用して新たな課題に積極的に対応していきたいと考えています。

皆様のおかげをもちまして海生研ニュースも100号を迎えました。これからも本紙面もお借りしてできるだけ分かりやすい情報の発信に努めたいと思います。今後とも、一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 退任のご挨拶

コーディネーター 清野 通康

本年9月末日をもちまして中央研究所長を退任いたしました。所長を拝命してから2年6ヶ月の間、暖かいご支援、ご指導を賜りました多くの皆さまに心からお礼申し上げます。

振り返ると、あっという間の2年半でした。この間、台風による中央研究所内の斜面崩落などにはありましたが大きな被害には至らず、おかげさまで所の研究活動を滞りなく進めることができました。また、多数の国内外の研究者をお招きしたり、地元の御宿町のイベントに協力し開催している「ギャラリー海生研」にこれまでにないほど沢山の皆さまにご参加いただけたなど、多くの所外の皆さまに中央研を見ていただくことができました。これらが海生研の活動を一層ご理解いただくきっかけとなっていれば幸いです。

在任中は、沿岸海域を豊かに保全・再生する具体

的な調査研究の提案や分かりやすい情報発信を行い、関連機関との連携の輪を広げ、海生研の特長を生かした幅広い社会貢献を実施したいと心がけて参りました。

これらがどの程度進展できたのか考えますと汗顔の至りですが、海洋環境への地球温暖化影響がよいよ顕在化し、また、国の公益法人改革が具体化しつつある今、海生研は、これまで以上に、具体的な提案、分かりやすい情報発信を行う必要があると感じております。

私自身、もうすぐ節目の年齢となりますが、新たな意識で、チャレンジ精神を忘れずに、職務に取り組みたいと考えております。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## 海生研ニュース100号発刊に際して

理事長 弓削 志郎

海生研ニュース100号に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

ひとくちに100号と言いますが、ここまで発行できたのは、読者を始めとして海生研をこれまで支えてくださった関係者の皆様方、海生研の顧問、専門家の方々のご指導が有ってこそであり、深く感謝するとともに、また、OB、現職員、そしてこのニュースを執筆、編集された方々の努力の賜物であり、これを讃えたいと思います。

100号の挨拶文を書くに当たり、初期のころの海生研ニュースを眺めてみますと、職員の紹介のページが有り、現在の職員の若かりしころの写真が掲載されています。ほとんど別人の人が多く、髪の毛の量と濃さ、体型がかくも年月とともに変化するのと言う見本のように、私のような新参者には、非常に面白く見ました。

100回と言うのは、いずれにしても重要な区切りではありますが、これは、あくまで、10進法の世界での区切りでありまして、コンピュータ時代の現在、2進法の世界で見れば、2の累乗の64とか128回で区切ると言うことになるのでしょうか。

日本語で、百というのは、「たくさん有ること」の代名詞だそうで、「百獣の王」、「百戦錬磨」、「酒は、百薬の長」とか言いますが、「百害あって一利無し」、「百聞は一見に如かず」とかマイナスイメージの「たくさん」も有るようで、自戒の念を込める区切りでもあります。人の100歳は、大長寿で、最晩年ではありますが、雑誌の100号は、まだまだ一つの通過点であります。イチローの3000本に並ぶのは無理でも、やはり200号を次の目標に掲げ、何事も継続は、力なり、を実践していくことだと思います。

さて、これからもこの海生研ニュースを多くの方に、興味を持って見てもらい、海生研の仕事をより良く理解して頂く必要が有ると思います。これから海生研が取り組むべき課題として、広報活動の充実が有りますが、その一環として、海生研ニュースにも新しい切り口を入れ、より広く、一般の方々にも活動を知ってもらうための何かアイデアが有りましたら、積極的に提案してもらえば幸いです。私としては、上述の若かりし頃と現状の対比写真で「初心忘るべからず」も一興かなと思っています。

## 海生研ニュース200号への発進に向けて

理事 城戸 勝利

### はじめに

光陰矢の如しとは言いますが第1号の昭和51年(1976年)9月から早くも32年が経ちました。その間、日本は高度成長期からバブル期を経てようやく長い低成長期を克服し、成長の兆しが見られましたが、その間デフレ傾向が続き、物価は安定していたものの所得は伸びない時期が続きました。一方では米国のサブプ

ライムローン問題に端を発する投機マネーの動きは、急速な燃油の高騰と世界食糧価格の上昇を誘発し、特に昨年来の燃油高騰の問題は漁家経営に深刻なダメージを与え、今年の7月15日にわが国の漁業史上初の全国20万漁船の一斉休漁に至ったことは記憶に新しい所です。更に、公益法人制度改革はその歩を進めており、内外ともに厳しい状況がこれからも続くこ



とが予想されます。

変らないためには変らなければならない—というキャッチフレーズがありました。当所の置かれている状況はまさしくその様な状況下にあるかと思われ

ます。海生研では、昨年7月16日の新潟県中越沖地震による実証試験場の被災を受け、創立30周年で構築した将来計画を見直し、新たに海生研新生プランを策定した所ですが(海生研ニュース, No.97, 2008年1月号), 向こう10年間については基本的にはこの方向で事業を進められたらと考えております。しかし、世の中の動きは早く、大きな方向性については新生プランをバックボーンとしつつ、個々の事業課題については弾力的にヒト(マンパワー)、モノ(施設)、カネ(予算)を効率的に充て、社会の期待に副える成果を挙げて行く必要があるかと考えています。

世界的なスケールとしての環境問題として昨今地球温暖化の問題があり、今年7月には各国首脳による洞爺湖サミットが開かれました。言うは易く、行うのは難しいのがその対策であり、望ましい低炭素化社会の構築(低炭素化社会ではヒトヒトは窒息?)には多くのハードルが待ちかまえています。大気中二酸化炭素CO<sub>2</sub>の削減努力は勿論ですが、昨今の温暖化気候による長野県でのリンゴ栽培の不調と本州の数県におけるマンゴー栽培の事業化に見られるように20~30年先の話ではなく、現に直面しつつある問題への対処方法としての温暖化への対策技術—例えば、養殖対象有用魚介藻類の①高温利用による成長の促進、育成期間の短縮、②上記と併せた高温耐性種の開発、③これらに伴う生理的・生化学的指標の検討などの技術的課題についても挑戦して行く必要があるかと考えます。

「火力原子力発電誌」の第622号(2008年7月)における浅野晴彦前会長の挨拶では、電力における今後の最大の技術課題は地球温暖化問題であり、①再生可能エネルギー、②原子力、③効率向上、④省エネルギーが解決の4本柱であり、最近では⑤CCS(CO<sub>2</sub>, 回

収/capture, 貯留/strage)が加わり、短期的に解決すべきもの、長期間が必要なもの、より一層の高度化を図るべきもの、新規に開発すべきもの等々、技術課題の態様も様々であり、時間軸を常に念頭に置きつつ多種多様な技術の組み合わせが必要と述べておられます。また、技術者には課題の多い時代ですが、かえって技術の進歩には良い時代と確信しているとも述べられています。この言葉は海生研の研究者達にとっても勇気づけられるものかと思えます。

200号に向けた、海生研の将来課題として、先の新生プランを軸としつつ、上記の5つのテクノロジーに係るものとして、①については、洋上風力発電に係る海生生物への影響予測と対策等、②については、海洋環境放射能調査継続による長期データの蓄積と解析等、③④については稼働時の冷却水系の安全で有効な付着生物対策による効率向上(発電所コスト削減)や取水時の迷惑生物としてのクラゲ防除・予測技術等、⑤については、我国の沿岸海底下CCSに伴う漏洩時の海洋環境、海生生物、漁業への影響予測技術の開発・高度化ならびに法制時のモニタリング技術の開発、それらの基礎となる実験室および現場実験による生物試験研究等が、現状で考えられます。

エネルギー、食糧、環境の三つの環が次世代以降も含めて、協調的に機能する様、当所が貢献し得る分野の課題は数多く、今後とも更なる挑戦・発展が望まれます。

## おわりに

海生研ニュース第100号の発行に至るまで、日頃から当所の運営についてご支援、ご協力を賜りました関係各機関、諸団体の皆様方には心よりお礼を申し上げます。今後は200号を目指して役職員一同まい進して参りたいと存じますので、引き続きご指導、ご鞭撻を賜ります様、お願い申し上げます。



# MERIマークの誕生秘話

18年前の所内報(1990年5月号)に、海生研シンボルマークの誕生に関する記事がありました。海生研に関わるものとして、現在では当たり前の存在になっているMERIマークも、熟慮の末に生み出されたようです。著者の深滝弘さん(設立当時の研究所副所長)に了承を得て、一部修正したものを以下に転載します。

## シンボルマークとロゴタイプの誕生記

海生研が発足して間もない頃、当時の松下理事長から「所名入りの封筒を作れ、それにはいずれシンボルマークも入れたいので、マークの制作についても至急手配せよ」という指示を受けた。職員数名で役職などとは関係なしに、何でもこなすことが必要だった創設期の一コマである。早速思いついたのが、(財)日本通信美術学園の存在であった。私が若い頃、学会発表には掛け図やスライドの作成が必要であり、己の文字の拙さを満天下にさらけ出してしまうのを避けるため、レタリングの通信教育を受けていたのである。

当時、千駄ヶ谷にあった学園に一人で飛び込んでいき、小嶋鉄雄編集部長にあって来意を告げると、先方では当方の組織について質問を重ねてきた。シンボルマークであるからして組織の業務目的については当然であるが、組織の規模のことをだいぶ気にしておられる模様なので、あまり小企業では引き受けてくれないのかなと気を回した発言をしてみると、返ってきた返事は全く逆であった。

小嶋部長の言によると、大組織ともなれば、シンボルマーク一つ決めるにも〇〇委員会とか〇〇チームとかを設けて、アーデモナイ、コーデモナイという慎重な議論が延々と繰り返されるのが普通で、報酬一筋に徹したデザイナーならともかく、芸術家肌のデザイナーはとてつき合いきれないのだそうである。そこへいくと中小企業では、「ヨッシャ、これで行こう!」というボスの一言で決まることが多いので、お宅のような組織なら喜んでお

引き受けしようとの言葉を聞いてホッとした。

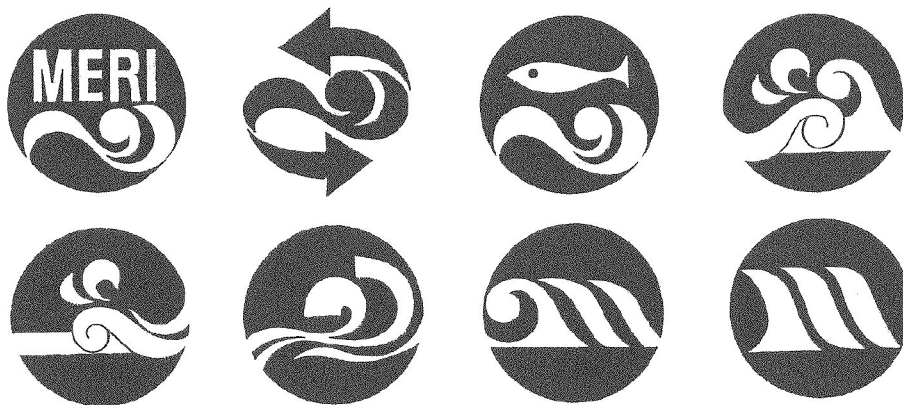
早速、学園の勤務デザイナーの一人、島田博さんと呼んで私に紹介し、学園や併設のデザイン研究所の仕事とはせずに、島田さん個人の勤務外の仕事として進めるようにと、その場で指示してくれた。島田さんからは、シンボルマークだけではなく、この際ロゴタイプも一緒に制作してはどうかという提案があり、一度帰って指示を仰ぎ、結局、漢字と英字のロゴタイプの制作も依頼することになった。

手元に残っていたシンボルマークの制作過程は下図のとおりで、3段階の絞り込みを経て採択された。

また、海生研のコーポレートカラーは「水色」となった。しかし、印刷の都度、水色の色調が合わないという悩みが生じてしまった。そこで、全国的に流通している煙草のケースに採用されている「淡い水色」と指定することで、大体うまくいくようになった。

現代用語辞典によれば、Corporate Identify: CIが重要な企業活動として我が国へ本格的に導入されたのは1980年代に入ってからという。そういえば、私どもに身近な存在である東京電力や中部電力のシンボルマーク改訂がなされたのも確か80年代に入ってからのものであり、現在でも各業界で社名変更とか、コーポレートカラーの採用などが続いている。1975年発足の海生研が最初からCIを意識していたのは、松下さんの先見の明というべきであろう。

第一段階



第二段階



第二段階(採用)

海洋生物環境研究所

邦字ロゴタイプ



シンボルマーク

MARINE ECOLOGY RESEARCH INSTITUTE

英字ロゴタイプ

### シンボルマークの制作過程

MERIマークのデザインに込められた先輩達の想いを正確に知ることはできませんが、私はMERIマークの水色を「冷静かつ公正に」という意志、寄せては返す波を「積極的かつ粘り強く」という姿勢

と、かつてに解釈しています。所外のみなさんにも「あのマークの研究所ですね」と言っていただける存在になれるよう、精進したいと思います。

(実証試験場 応用生態グループ 眞道 幸司)



## 環境教育の実践

当研究所では、環境保全のためには、環境教育も重要な活動のひとつと考えています。ここでは5～8月に実施した活動の一部をご紹介します。

### 1. 御宿町「田んぼの自然観察」に参加

5月27日、絶滅が危惧されるミヤコタナゴの生息地の一つである御宿町の谷津田において、地元の小学生を対象とした「田んぼの自然観察」(主催：御宿町教育課)が開催されました。参加したのは、御宿小学校、布施小学校の5年生計64名で、御宿町のミヤコタナゴ保護委員会の委員を委嘱されている中央研究所の職員2名が町の依頼によりインストラクターとして同行しました。

各自タモ網を手に、首から小さな飼育ケースをぶら下げて、用水路沿いの畦道をぞろぞろ大行進して上流のミヤコタナゴ生息域を目指しました。途中の水路や水溜りを網で探ると、メダカ、ドジョウ、ザリガニ等が捕れ、ケースに入れてちょっと観察してから放流しました。こんな見慣れた生き物では外房の野生児達には物足りないだろうと思ったら、意外や意外の大はしゃぎ。「こんなにたくさん生き物がいるところは初めてだ」なんて感激している子もいて、自然豊かな御宿町で育った子供達といえども、現代っ子は野生生物に触れる機会が少ないのかもしれない。



ミヤコタナゴの生息域に到着してからは、石鍋壽寛 観音崎自然博物館副館長の「人と自然との共存がミヤコタナゴを育む」という説明にじっと耳を傾けていまし

た。今回のイベントをきっかけにして、希少種の生息する郷土の自然を誇りに思い、これを守りたいという気持ちが芽生えてくれることを期待します。

なお、生息域の水路を覗いたところ、婚姻色の現れたオスを含む数個体のミヤコタナゴが確認されました。

御宿町のミヤコタナゴについては、御宿町ホームページ <http://www.town.onjuku.chiba.jp/mtanago/index.htm> で詳しく紹介されています。

(中央研究所 海洋環境グループ 三浦 雅大)

### 2. 青少年のための科学の祭典

6月7日(土)に新潟工科大学(新潟県柏崎市)で「青少年のための科学の祭典2008柏崎刈羽大会」が開催されました。これは柏崎市教育センターが市内外の関係機関に協力を求め開催するもので、海生研の実証試験場からは馬場総括研究員を中心とした職員が協力し、「海藻おしばを作ろう」というブースを設けました。来場された参加者に好みの色・形の海藻を、しおり程の大きさの画用紙に広げて、自由にデザインしてもらいました。





海藻おしばは乾燥させるのに1週間ほどかかるため、当日は職員が持ち帰り、乾燥後、ラミネート加工して参加者に届けました。なお、当日の参加者は親子連れが多く、実証試験場のブースでは125組の参加者が海藻おしばを作りました。

(実証試験場 応用生態グループ 三浦 正治)

### 3. 荒浜小学校5年生の総合学習

7月14日(月)に実証試験場では、地元の荒浜小学校の5年生(52名)を対象として、総合学習の教室を開きました。

海の生き物と環境について理解を深めていただけるよう「海藻のお話し、海の汚れを調べる生き物をそだてる、海生研とはどんなところ」の3つのテーマにつ



いて観察してもらいました。

説明の後には、「海藻にはオスやメスはいるのですか」、「海水はなぜ塩辛いのですか」、「海にはなぜ沢山の生き物がいるのですか」など沢山の質問がありました。海に親しみ、興味を持つことや知ることの学習を通じて、今回夏休みの自由研究のテーマが見つかった生徒達もいたかもしれません。

(実証試験場 応用生態グループ 箕輪 康)

### 4. 実証試験場見学

実証試験場には、柏崎市内外の小学校や子供会、自治会などから見学の依頼があります。そのような場合には、目的や時間などについて、前もって確認した後、見学頂く内容を決めています。

場内の飼育施設等の見学では、アイゴの実験水槽内の様子をビデオカメラで紹介したり、屋外水槽群の魚を見学してもらったりしています。見学される方々の目的にもよりますが、時間的な余裕がある場合には、柏崎の海藻を実際に手にとって観察するコーナーや海藻



出雲崎小学校の見学(7月29日)



柏崎市小学生と保護者の見学(8月4日)





土合子ども会の見学(8月8日)

おしばを作るコーナーなどを設けることもあります。なお実証試験場に併設されている温排水資料展示館には映写室があり、発電所の取水水や海洋生物などのビデオを見て頂くこともできます。また関連した研究成果についても展示しています。展示館の開館は、平日の午前9時30分～午後4時。入館は無料です。

(実証試験場 応用生態グループ)

### 5. 刈羽村ふるさとまつりに協力

8月15日(金)に第29回刈羽村ふるさとまつりが生涯学習センター「ラピカ」にて開催されました。実証試験場では、「ふるさとの池や川の生きもの」水槽展示と「ふるさとの海の生きもの」タッチングプールをまつりの会場に設置しました。



「ふるさとの池や川の生きもの」水槽展示

当日の朝は激しい雨でしたが、お天気も徐々に回復し快晴になり、おかげで来場者の数も大幅に増え、実証試験場の展示ブースは大盛況でした。水槽展示では、タナゴの生態に関する質問が多くあり、また水棲昆虫を見て「昔はたくさん見たけど、今は居ないよ」という感想が聞かれました。タッチングプールでは、子供



「ふるさとの海の生きもの」タッチングプール

たちがひっきりなしにプールを覗き込み、びしょ濡れになりながら楽しんでいる姿が印象的でした。

(実証試験場 応用生態グループ 喜田 潤)

## NHK「クローズアップ現代」で海生研の研究を紹介

さる7月1日(火)に放送されたNHKテレビ・クローズアップ現代の「海が枯れる～温暖化で忍び寄り寄る危機～」について、NHK福岡放送局より取材協力依頼を受けました。

取材は6月23日に中央研究所で行われ、当研究所の馬場総括研究員と磯野主査研究員が対応しました。

7月1日は、「海が枯れる」磯焼け(様々な魚介類の産卵場・餌場であり、沿岸漁業を支えてきた藻場の海藻が枯れる現象)の原因のひとつと考えられている藻食性魚類のアイゴが大型海藻のアラメを採食する試験風景が放送されました。

海生研では今後も所外からの要請については、積極的に貢献したいと考えています。

(実証試験場 応用生態グループ 馬場 将輔)

## 海生研調査研究レビューの開催

去る平成20年7月8日(火)～9日(水)に、「平成19年度海洋生物環境研究所調査研究レビュー」を開催しました。この会は、従来から役職員間における調査研究業務内容の理解推進、連携の強化を目的に、前年度に行った調査研究業務の内容を発表し、意見交換する場として、毎年3局場所の持ち回りで実施している所内行

事です。今回は、東京(事務局)での開催とのこともあり、常日頃からご支援、ご指導いただいている理事、評議員、運営委員の方々にもご参加いただきました。

近年、調査研究業務の内容が多様化していることもあり、2日間の日程では全ての調査研究業務について発表出来ませんでした。国や民間からの委託業務の他、研究員が自主的に行っている所内調査研究についても、発表されました。

理事、評議員、運営委員の方々からは、「レベルの高さを再認識した」、「事業報告では解らないような内容を確認できて良かった」とのお褒めの言葉をいただくと同時に、「一部の発表で見難いスライドがあったのが残念」、「論文にとりまとめ、発表していただきたい」とのご指摘をいただきました。



レビューでの発表の様子

最後になりましたが、ご多忙中にもかかわらずご参加頂いた理事、評議員、運営委員の皆様方に、この場を借りて厚く御礼申し上げますとともに、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

(事務局 研究企画グループ 山田 裕)

## 座談会「漁業と原子力の共生を考える」の出版について

海生研ニュース97号(2008年1月発行)で紹介しました「漁業と原子力の共生を考える」座談会の内容につきましては、社団法人 漁村文化協会より出版されております。

発行所；社団法人 漁村文化協会(電話03-3583-2204)、ISBN978-4-905790-00-6 C0060¥1200E

(中央研究所 原 猛也)

## JR東日本「駅からハイキング」

### 「スペイン・メキシコ友好歴史探訪ハイキング」へのお誘い

来たる10月25日(土)に行われるJR東日本主催の「駅からハイキングースペイン・メキシコ友好歴史探訪ハイキング」のコースに海生研も組み込まれています。

歴史探訪とは、今から約400年前(1609年9月)、当時のスペイン領フィリピンからメキシコに向かう途中のサンフランシスコ号が嵐で難波しましたが、多くの乗組員を岩和田(現御宿町)村民が救助しました。救助された乗組員は徳川家康に謁見し、家康が三浦按針(ウィリアム・アダムス)に建造させた新しい船で無事メキシコに帰国しました。この難破した地点が海生研中央研究所地先の海岸(田尻海岸)です。なお、来年は400周年の記念事業が御宿町によって盛大に行われる予定です。

このコースは、御宿駅(受付時間8:30-11:30)をスタートして、御宿海岸、月の沙漠記念館、田尻海岸、海生研、メキシコ塔(ここで伊勢海老汁サービスがあります)、岩の井酒造、歴史民族資料館等を訪ね、御宿駅に戻るまでのおよそ9kmの行程となっています。

この機会に海生研を訪問してみませんか？

(なお、「駅からハイキング」に参加するためにはJRへの予約が必要です。このコースの応募締め切りは10月22日(水)です。詳しくはJR東日本「駅からハイキング」のホームページ、コースNo.07813 <https://www.jreast.co.jp/hiking/evdetail.aspx?EvCd=0810251507813> あるいは、JR駅のチラシ等をご覧ください。)

(中央研究所 木下 秀明)

## 実証試験場を公開します

来たる11月1日(土)、実証試験場(新潟県柏崎市荒浜)を一般の皆様にご公開いたします。

実証試験場は、昨年7月の新潟県中越沖地震で被災し、復興途上ではありますが、海の生きものとのふれ合いや生物の顕微鏡観察など、一般の皆様にとって普段はなかなか体験できないメニューを盛りだくさんに用意しております。

この機会に是非お出かけください。



と き	平成20年11月1日(土) 午前10時～午後3時
と ころ	(財)海洋生物環境研究所 実証試験場 柏崎市荒浜4-7-17
内 容	(イベントコーナー) 1. 研究所紹介 2. 海の生きもの観察 3. 海の生きものとのふれあい(タッチング・プール) 4. 海藻おしば教室 5. 魚の解剖教室 6. 地震からの復興について ◎他にもいろいろなコーナーで海の環境と生きものについて、研究員が楽しく分かりやすく解説いたします。
問い合わせ先	(財)海洋生物環境研究所 実証試験場 TEL. 0257-24-8300
ホームページ	<a href="http://www.kaiseiken.or.jp/">http://www.kaiseiken.or.jp/</a>

(実証試験場 太田 雅隆)

## 人事異動

### [事務局]

- ◎平成20年7月31日付  
・吉野 美紀 契約研究員解職(研究調査グループ)
- ◎平成20年10月1日付  
・藤井 誠二 研究調査グループマネージャー

### [中央研究所]

- ◎平成20年10月1日付  
・木下 秀明 所長  
・原 猛也 所長代理, 総務グループマネージャー併任  
・清野 通康 コーディネーター(研究業務全般担当)  
・道津 光生 海洋環境グループマネージャー

### [実証試験場]

- ◎平成20年10月1日付  
・馬場 将輔 応用生態グループマネージャー

## 研究成果発表

### 口頭発表

- ◆平成20年度(第50回)日仏海洋学会総会及び学術研究発表会(平成20年6月28日)  
・中村倫明・和田明(日本大学), 長谷川一幸.  
発電所のCO<sub>2</sub>削減量を想定したCO<sub>2</sub>海洋隔離による濃度予測

- ◆水産技術交流プラザ第3回技術交流セミナー「目指せ養殖革命 最先端の飼育装置」(平成20年7月23日, 水産総合研究センター養殖研究所)  
・島隆夫.  
稚魚用自発摂餌システムー種苗生産技術の高度化
- ◆第14回バイオアッセイ研究会・日本環境毒性学会合同研究発表会(平成20年8月29日, つくば市)  
・伊藤康男, 高久浩, 吉川貴志, 土田修二, 中村幸雄, 木下秀明.  
シオダマリミジンコを用いた慢性影響試験法の開発
- ◆日仏海洋学会シンポジウム2008(平成20年9月8日, マルセイユ海洋研究所, フランス)  
・Masao Miura, Masayuki Yamamoto.  
Behavior of bigeye trevally (*Caranx sexfaciatus*), a subtropical marine fish, in the vicinity area of a thermal power plant in Japan
- ◆日仏海洋学会シンポジウム2008(平成20年9月9日, マルセイユ海洋研究所, フランス)  
・Toshio Iibuchi, Takeya Hara, Shuji Tsuchida, Seiji Kobayashi・Ichiro Katsuyama(日本エヌ・ユー・エス), Tsutomu Kobayashi(東京久栄), Michiyasu Kiyono.  
Accumulation of bromoform as the chlorination byproducts by Japanese flounder  
・Michiyasu Kiyono, Katsutoshi Kido.  
Outline of recent research activities of Marine Ecology Research Institute regarding to thermal discharge in Japan
- ◆平成20年度土木学会全国大会 第63回年次学術講演会(平成20年9月11日)  
・中村倫明・和田明(日大), 長谷川一幸, 落合実(日大).  
CO<sub>2</sub>濃度予測モデルのメッシュ細分化による効果

### 論文発表等

- ◆Takashi Kikkawa, Yuji Watanabe(環総テクノス), Jun Kita, Atsushi Ishimatsu(長崎大).  
Acute CO<sub>2</sub> tolerance limits of juveniles of three marine invertebrates, *Sepia lycidas*, *Sepioteuthis lessoniana*, and *Marsupenaeus japonicus*.  
Plankton and Benthos Research, 3(3):184-187, 2008
- ◆磯山直彦・及川真司・御園生淳・中原元和・中村良一・鈴木奈緒子, 吉野美紀(日かつ協同), 鈴木千吉, 佐藤肇(放射線影響協会), 原猛也.  
誘導結合プラズマ質量分析法により定量したマコガレイ筋肉中のセシウム濃度と成長の関連性.  
分析化学, 第57巻9号:763-769, 2008年9月

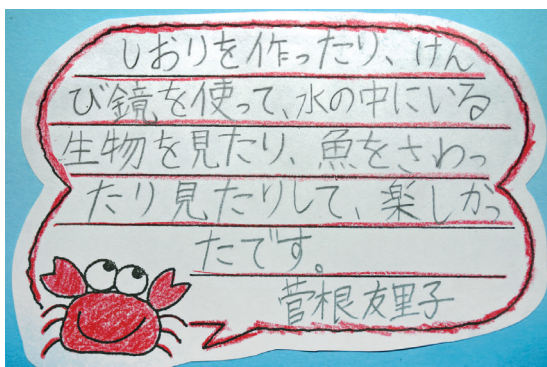
## 行事抄録

( )表示のないものは東京で開催

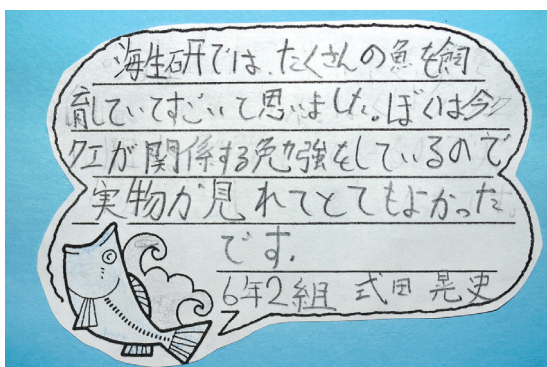
- 7/8,9 海生研調査研究レビュー
- 9/12 第1回核燃料サイクル施設沖合データ解析部会
- 9/12 第1回原子力発電所等周辺データ解析部会
- 9/16 第1回海洋放射能調査結果検討評価部会
- 9/17,18 第1回発電所生態系予測手法検討調査検討委員会(大分)
- 9/18 第1回海洋放射能検討委員会
- 9/22 第1回定着性生物温排水影響調査検討委員会
- 9/25 第2回漁場環境化学物質影響総合評価事業検討委員会

## 表紙写真について

表紙の写真は、平成20年2月16日(土)、17日(日)の「ギャラリー海生研」に来所された御宿小学校5、6年生(全90名)から届いた寄せ書きです。



「ギャラリー海生研」は、御宿町商工会が主催するイベント「ONJUKUまるごとミュージアム」の一環として毎年開催している中央研究所施設の一般公開で、日頃の調査研究活動を御宿町など地元の皆さんに知っていただく、良い機会となっています。



当日は、色々な海の生物を見たり触ったりしてもらいましたが、寄せ書きにもあるように、勝浦の豊浜港周辺

で捕まえたドチザメや、中央研で20年以上飼育を続けている大きなクエに人気がありました。クエについては、国語の教科書に出ているとのこと。

中央研究所ではこのギャラリー海生研の他に、職場体験などでも地元小中学生を受け入れています。自然教育、環境教育の大切さが認識されてきている中で、まずは、海の環境や生物に親しむことの大切さを伝えることができればと思っています。

中央研に来所された児童、生徒の中から、将来、海の研究者が生まれてくるかも知れない、このように思うと、ワクワクしてきます。

(中央研究所 海洋環境グループ 山本 正之)

## 海生研へのご寄附のお願い

海生研は、発電所の取放水等が海の環境や生息する生物に与える影響を科学的に解明する中立的な調査研究機関として、農林水産省、経済産業省、環境省の共管のもと、昭和50年に設立されました。特に、生物と温度の関係について専門的に調査研究を行う独立の研究機関は、国内はもとより外国にも例のないものです。

海生研は、国や民間からの受託研究の他、民間からの寄附金により運営されており、大規模発電所の取放水が生物に及ぼす影響の解明を中心に、食の安全・安心や海生生物の保護にかかわる海洋環境中の微量化学物質や放射能の実態把握等の調査研究を実施しております。

海の中の生物やその環境との係わりについては複雑で奥深いものがあり、地域性を含めて未だよく解らないことが多く残されています。長期的な展望に立ち、計画的・安定的に調査研究を推進することで、これら残された諸課題をさらに解明するためにも、更なる基盤の充実を図る必要があります。

何卒皆様からのご支援・ご寄附をお願い申し上げます。なお、当財団は主務大臣より「特定公益増進法人」としての認定を受けておりますので、ご寄附いただいた方に対しては、税法上の優遇措置が講じられています。

振込先口座 三菱東京UFJ銀行 新丸の内支店  
普通預金口座 4345831  
口座名義 (財)海洋生物環境研究所  
理事長 弓削 志郎

海生研ニュースに関するお問い合わせは、  
(財)海洋生物環境研究所 事務局までお願いします。  
電話 (03) 5210-5961